

FDのための情報技術研究講習会の実施結果

1. 参加状況

開催日：令和6年2月26日(月)

場 所：追手門学院大学総持寺キャンパス

参加者：37名・33大学1短期大学（前年度オンライン開催60名・42大学2短期大学）

2. 研究講習会の目標

学生一人ひとりの可能性を最大限に伸長する学修者本位の教育への転換や、教育の質向上・高度化を目指した対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせた新しい学びの創出を目指して、反転授業を中心とした対面・オンラインの組合せ授業、教材作成・ICT活用、ChatGPTへの対応など、基礎的な理解を深め実践できるようにするため、「全体会」と「ワークショップ」を設定した。

3. 実施結果

(1) 参加教員全員を対象とする全体会では、「講義映像を活用した反転授業の効果的なデザインを考える」、「生成AIを活用した授業の取組み」、「法政策系分野オンラインフォーラム型授業実験の成果と課題」、「デジタル教材の著作権対応とChatGPTの対応」について説明を行った。

全体会については、参加された教員から、以下のような特徴的な感想があった。

- ・ レクチャーで得た知識をワークショップでスキルとして身に付ける素晴らしい構成だった。
- ・ 反転授業を実施する基本的な考え方に頭の整理がついた。
- ・ 学会等でDXをもとにした授業の取組み報告を聞いたが、どのように対応すべきなのか分からないままだった。今回は、いろいろな方法・やり方が聞けて良かった。
- ・ テーマが多くダイジェストであったが、全体の大きな流れや課題が理解できた。
- ・ 生成AIと著作権の話は考えたこともなかった内容で大変興味深かった。

(2) ワークショップの達成度を以下に掲載する。（アンケート回答者22名）

ワークショップ名	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
① オンデマンド動画教材作成の紹介	4.5割(5人)	4.5割(5人)	1割(1人)
② 1コマから反転授業を実践しよう	3割(3人)	7割(8人)	
③ 対面・オンライン授業でのICT活用	5.5割(7人)	3割(4人)	1.5割(2人)
④ 多様な学習環境における学修評価方法	1割(1人)	8割(7人)	1割(1人)

(3) 以下にワークショップの参加者から、特徴的な感想を紹介する。

① オンデマンド動画教材作成の紹介は、

- ・ 具体的なポイントを聞くことができたので、後は実践あるのみだと思った。
- ・ 自分のパソコンで実際に操作確認できたのが良かったと思う。

② 1コマから反転授業を実践しようは、

- ・ 難易度が高いイメージから、気軽に導入できるイメージに変わった。
- ・ 内容が実践的で、次年度の授業からできるような気になった。
- ・ ワークの時間があり、グループで意見交換できたのが良かった。
- ・ 反転授業の問題点について、様々な事例を挙げながら理解を深める時間があればより良かった。

③ 対面・オンライン授業でのICT活用は、

- ・ 様々な授業支援の方法を知ることができ、実際に使用してみたいものがたくさんあった。
- ・ 学生が普通に使っているChatGPTをどうするのか分からなかったので、体験できて良かった。
- ・ ツールのメリットとデメリットを具体的に聞くことができればより良かった。

④ 多様な学習環境における学修評価方法は、

- ・ 新しい授業を考えねばと奮起し、ARCSモデル（学習意欲向上の動機付け）の話はとても共感した。
- ・ 自分のシラバスは良くできていると自負していたが、学修目標と評価方法がリンクしておらず、明確でもなかった。
- ・ 生成AIの登場による評価方法の変化の具体例がもう少し欲しかった。